「修了授業について」

発達障害教育専攻　中学部２組　京都花子

▼これまでの授業実践を通して

これまでの授業の中では、笑い竹の制作を中心に行ってきた。今までの笑い竹づくりでの課題を基に、失敗を減らせるような工夫をした補助具を作成した。補助具の使い方を上手く活用するのが難しかったが、指導者が手元で示しながら説明を行うことで、正しく使うことができた場面が見られた。一方で、丁寧に作業を進めることに声かけを行いながらも、丁寧に行う姿や状態の良いものを作成することに課題が残った。

また、指導者として、全体を見て活動を進めることに課題を感じた。どうしても、目の前の生徒に意識が向いてしまい、全体での生徒の様子を見ることができていなかった。途中で、作業の場を離れてしまう生徒が居た時に他の生徒をどのような体制で見守り、活動を進めていくのか、指導者同士の連携の大切さを学ぶことができた。

さらに、生徒のその時々の体調や意欲の上下に応じて、活動の内容を臨機応変に変更することの重要さにも気が付くことができた。無理に活動に参加させるのではなく、小さなことでも自分の役割を持ち、活動することができれば、その生徒も、他の生徒も「みんなで活動を行うことができた」という意識を持つことができる。このように、その生徒の特性に合わせた活動設定を柔軟に行うことを課題だと感じる。

授業を重ねるごとに、生徒が得意な作業や苦手な作業を把握し、生徒同士の相性や指導者の配置を工夫することができてきていると感じる。どのような支援が有効なのか、先生方の手だてを学びながら活動を進められるようになってきた。また、補助具を工夫し、笑い竹の状態を安定させることができていることが成果だと感じる。

▼修了授業での私の課題

私の修了授業での課題は、全体を見ながらの指導である。目の前の自分の持つグループに集中するのではなく、全体を把握しながら活動を進めたい。そのために、補助の先生との連携を取り、指導者が抜けた際の対応を臨機応変に対応するようにしていく。あらかじめ、補助の先生とは打ち合わせを行い、抜ける際には一言声をかけるなどの共通認識を持つようにしていきたい。

また、一人一人の役割作りも工夫して行いたい。活動への意欲の上下が大きく出てしまった際に、自分の意思表示や、ここまでは活動を行おうという目標を明確に提示し、達成できたら活動内容を柔軟に変更できるようにしていきたい。

授業全体を通して仲間と協力し、それぞれの働きを認め合えるような振り返りも行っていきたい。

生活学習指導案

指導者　京都花子
補助者　教育太郎
担当指導教員　特別支男

１．対象　　中学部２組　６名
２．日時　　令和８年１２月３日（水曜日）１、２校時（９：１５～１０：３０）
３．場所　　中学部２組教室、中学部２組教室前通路
４．題材名　「ミニ門松を作ろう」
５．題材について
①生徒観
本題材において、生徒たちの様子としては、地域の方に作成したミニ門松を渡すことを理解しており、喜んでもらいたいという思いを持って活動に取り組んでいる。さらに、門松をつくる理由を、一年を笑顔で過ごすためであることにも触れてきた。
導入の時間では、毎時間繰り返し門松をつくり地域の方に喜んでもらうためであることを振り返ってきた。そのことを理解し、導入の部分では意欲的に発言する様子が見られる。一方で、仕上がりの状態が良いものの方が喜んでもらえるという発言はあるものの、丁寧な作業に課題が見られる面もある。竹を切って制作することにおいては、以前にも取り組んだことがあり、道具の正しい使い方は身についている。そこで、よりきれいに切るための補助具や、支えるという役割にも焦点を当てて活動してきた。筋力が弱い生徒や活動によって意欲に上下が見られる生徒もいるため、この題材では、グループで活動することによって、それぞれの役割を持ち、仲間と協力しながら活動することを目標としている。

②題材観
この題材では、まず、第一次のミニ門松をつくってみる活動から始まっている。そこで、第二次で「道の駅おおかめだに」として地域の人へ渡すものとしての活動になっている。地域の方に喜んでもらうためにミニ門松づくりを行うことを理解し、さらにどのようなミニ門松がより喜ばれるかまで思考を広げている。そこで、渡す相手を意識し、丁寧な作業を心掛けるように、授業を重ねるごとに声かけを行ってきた。本時以降の第三次では、渡す相手を家族に設定し、より身近な相手へと意識を変化させていく。このように、より身近な存在へと意識を変えていくことで、学校のなかでの授業としての学習にとどまらず、生徒の生活の中に根付いた学習になることが期待できる。

③指導観

授業の中の導入では、毎授業の中で繰り返し地域の人に渡し喜んでもらうことについて触れてきた。何度も繰り返し行うことで、生徒の中に門松づくりの目的を根付かせる。さらに、視覚的な支援を多く使い、イラストや写真を多く用いて授業を進めていく。自分の意思を言葉で表現することが苦手な生徒に対しては、イラストを用いた選択肢のカードを用意し、指さしによって意思表示ができるようにしておく。さらに、活動に意欲の上下が見られる生徒に対しては、適度な声かけと、行うことのできそうな活動の提示をし、小さなことでも役割を持ち、安心感を持って活動に取り組めるようにしていく。万が一、その場を離れてしまう生徒がいた場合には、他の生徒の安全も確保できるように、無理のないグループ設定と学習の場を設定する。その場を離れる際には、指導者同士で声をかけられるように連携を取る。また、最後の振り返りで活動の様子を写真で提示することにより、活動の成果や、仲間同士でそれぞれの活躍を認められるように場を設定する。

６．題材の学習目標

〔知識及び技能〕

・日本に伝わる文化として門松について知る。

・これまでの素材として扱ってきた竹を使って新たなモノづくりに取り組む。

〔思考力、判断力、表現力等〕

・門松に使われる材料を知り、必要なものを準備することができる。

・仕上がりを意識して一つ一つの作業に取り組む。

〔学びに向かう力、人間性等〕

・受け取る相手の喜ぶ姿を想像してより良い門松づくりに取り組む。

７．題材の指導計画（全１８時間）

第一次「ミニ門松をつくろう」（５時間）

第二次「道の駅「おおかめだに」に向けてミニ門松づくり」（9 時間　本時５時間目）

第三次「ミニ門松づくりを作って家族に喜んでもらおう」（４時間）

８．本時の学習

①本時の学習目標

〔知識及び技能〕

・道具の使い方を理解し、正しく安全に使うことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

・地域の人に渡すものであることを理解し丁寧に飾りつけをしようと考えることができる。

〔学びに向かう力、人間性等〕

・仲間と協力して作業を行うことができる。

②生徒の実態と目標・手だて

生徒名	生徒の様子	目標	手だて
A	○緊張しやすく、活動によっては意欲の上下が見られるため、指導者からの声かけが大切になる。 ○教師の指示を聞いて自力で活動することができる。 ○作ったものを地域の人に渡すものであることを理解している。	○地域の人に喜んでもらうことを意識しながら活動を行い、状態の良い門松づくりを行うことができる。 ○友達と協力し、声を掛け合うことができる。 ○より状態の良い門松にするには、どうすればよいのか考えることができる。	○補助具の使い方を視覚的に説明する。 ○手順表を準備し、確認をしながら活動ができるようにする。 ○友達の様子にも注目するように振り返り時に声かけを行う。 ○写真やイラストを使い、視覚的に比較ができるようにする。
B	○簡単な指示を理解することができる。 ○自分から活動を行うことは難しいが、指導者が指示を行うことで活動に取り掛かることができる。 ○作業をルーティン化することで、自力で取り組みやすくなる。 ○イラストなどの視覚的な選択肢を与えると、どちらか選ぶことができる。 ○作ったものを地域の人に渡すことを理解している。	○指導者や友達とともに役割を持って活動に取り組むことができる。 ○指導者の声かけを受けて自分から取り組もうとすることができる。	○何を行うのか、何を準備するのか、視覚的にわかるものを準備しておく。 ○指示を簡潔に行い、指導者が側につき活動を促す。 ○活動への参加について、どの作業を行うのか、視覚的にわかるようなものを準備する。 ○自分の意思をカードの指さしで行えるようにカードを作成する。 ○当日の様子を見て無理に取り組ませない。
C	○作品の出来上がりに傷がついてしまったり、間違えてしまってもできたとしてしまったりすることがある。	○地域の人に喜んでもらうために、丁寧に門松づくりを行うことができる。 ○友達と協力しながら	○補助具の使い方を視覚的に説明する。 ○手順表を準備し、確認をしながら活動ができるようにする。

	○活動に意欲的に取り組む様子が多いが、疲れている時などの気分の浮き沈みが見られる。 ○作ったものを地域の人に渡すこと、なぜ門松を作るのかを理解している。	活動を行うことができる。 ○より状態の良い門松にするには、どうすればよいのか考えることができる。	○良い仕上がりのものを示し、自分が作ったものと比べられるようにする。
D	○簡単な指示を理解することができる。 ○自分から活動を行うことは難しいが、指導者が指示を行うことで活動に取り掛かることができる。 ○イラストなどの視覚的な選択肢を与えると、どちらか選ぶことができる。 ○集中力が途切れやすいため、指導者からの促しが必要。	○指導者や友達とともに役割を持って活動に取り組むことができる。 ○指導者の声かけを受けて自分から取り組もうとすることができる。	○何を行うのか、何を準備するのか、視覚的にわかるものを準備しておく。 ○指示を簡潔に行い、適宜、指導者が側につき活動を促す。
E	○力が弱く、筋力の必要な活動では指導者や友達からの補助が必要となる。 ○なぜ門松を作るのか理解している。 ○活動への意欲の上下があり、適切な声かけが必要。	○自分の役割を意識し、活動に取り組むことができる。 ○友達と協力しながら活動に取り組もうとすることができる。	○補助具の使い方を視覚的に説明する。 ○手順表を準備し、確認をしながら活動ができるようにする。 ○筋力が必要な活動で、補助が必要な場合は、適宜指導者やグループの友達が補助に入る。
F	○作品の出来上がりに傷がついてしまったり、間違えてしまって	○地域の人に喜んでもらうために、丁寧に門松づくりを行うことが	○補助具の使い方を視覚的に説明する。 ○手順表を準備し、確

	もできたとしてしまったりすることがある。 〇周りの友達のことに気を配る様子が見られ、進んで協力しようとする姿が見られる。 〇作ったものを地域の人に渡すこと、なぜ門松を作るのかを理解しているが、良いものを作ろうとする意識が低い面も見られる。	できる。 〇友達と協力しながら活動を行うことができる。	認をしながら活動ができるようにする。 〇良い仕上がりのものを示し、自分が作ったものと比べられるようにする。

③本時について

生徒は本時までに、なぜ門松を作るのかを繰り返し学んでおり、地域の人に渡すために作成していることを理解している。そこで、本時では最後の工程である飾りつけの活動を行う。ここでは、どんなミニ門松がより喜んでもらえるのか、写真を提示し、どちらがより喜んでもらえるのか考える時間を設ける。より喜んでもらえる門松を理解した上で、それを目標とし、目標を持って取り組むことができるように流れを組む。

学習形態としては、グループ分けを行い、自分が得意な作業を行うように活動を割り振る。さらに、他の人の作業の様子を見ることができるように作業の場を工夫する。

教材・教具としては、視覚的にわかりやすいスライドを用意し、どのように道具を使い、活動を行っていくのかわかるように進めていく。さらに、手順書を作成しておくことで、その場で手順を確認できるようにしておく。

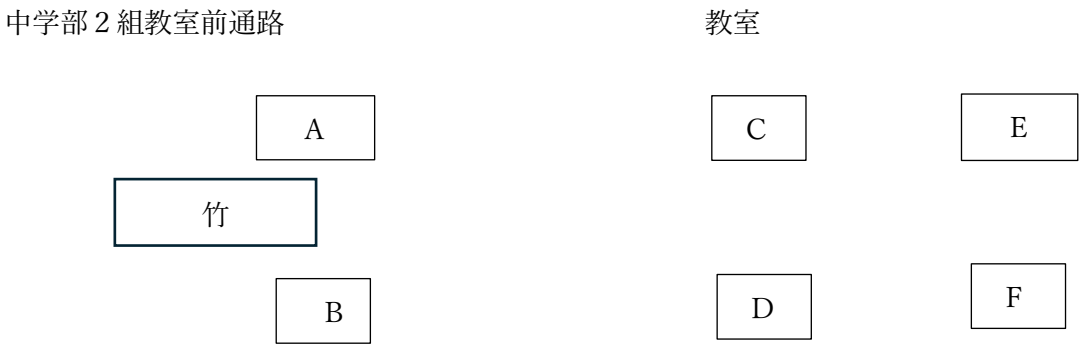
手だてとしては、説明をする際に、イラストや写真を用いて行い、視覚的にわかりやすくする。さらに、飾りつけの手順を手順表として手元で確認しながら作業を行えるようにする。また、それぞれが得意とする活動ごとに割り振りを行い、自分の役割を持って活動に取り組めるように進める。

④本時の展開

学習の流れ	学習活動	手だて
9:15～	〇はじめのあいさつ ①題材の目的を知る ・「道の駅おおかめだにはいつありますか」 ・「道の駅おおかめだに向けて何を作って	・今まで行ってきた活動の目的、流れなどを写真やイラストを用いて確認する。 ・選択肢を２択で準備しておく。

	いますか」 ・「ミニ門松は誰に渡しますか」 ・「なんのために門松を作りますか」 ・材料の確認 ②本時の活動内容を知る ・ミッションの動画を見る ・今日使う道具や手順を知る ・今日活動を行うグループと、活動内容が入れ替わることを知る	・手順の方法を実際に作成いたものを見せながら確認する。
9:30～	○準備開始 ・材料を確認し、自分の作業に使うものを選ぶ。	・準備物がわかるようにスライドをコピーしておく
9:40～	○活動開始 〈竹切りチーム（笑い竹)〉(I・I、M・N) ・補助具を使い、線を引く ・のこぎりで切る ・20 ㎝、25 ㎝を測り、切る。 〈飾りつけチーム〉(K・Y、K・Y、Y・M、S・K) ・飾りつけの材料を用意し、手順に沿って装飾していく。 ○活動内容交代 〈竹切りチーム（笑い竹)〉 ・補助具を使い、線を引く ・のこぎりで切る ・20 ㎝、25 ㎝を測り、切る。 〈飾りつけチーム〉 ・飾りつけの材料を用意し、手順に沿って装飾していく。	・補助具の使い方を手順書にし、確認しながら進められるようにしておく。 ・切り終わった竹を入れる時にかごを間違えないように蓋を付けておく。 ・次になんの作業を行うのか、ホワイトボードに書いておく。タイマーもセットし、残り時間と活動時間の終わりを区切る。 ・目標個数を設定し、達成できたら自分のしたい活動に移行する。
10:15～	○活動終了、片づけ開始 ・使った場所の片づけを行う。	
10:20～	○振り返り ・写真を見ながら今日それぞれが頑張ったことを振り返る。	・写真を示し、一人一人頑張ったことをみんなで確認できるようにする。

⑤学習の場の図



（作業が終わり次第交代）

⑥準備物

・テレビ
・竹用のこぎり
・メジャー
・補助具
・帽子
・軍手
・長靴
・手順表
・シール
・きり
・ボンド
・顔写真カード
・竹
・タイマー
・木挽き台
・写真撮影用の携帯
・土台用竹
・スコップ
・ドライバー
・ボルト
・霧吹き
・カゴ

⑦本時の評価

・地域の人に喜んでもらうために、より丁寧に作業をしようと意識することができたか。
・自分の役割をこなし、友達と協力して作業を進められたか。

９．まとめ

今回の授業では、ねらいとして①一人一人が役割を持って活動を行うこと、②友達と協力して活動を行うこと、③地域のひとに喜んでもらうために作るという意識を持つことを意識しながら活動を行った。①は、手順表や補助具を工夫し、各個人がしっかりと役割を持ち活動を行うことができた。②は、個人で役割分担を行ってはいるが、グループで活動することで繋がりを持ち、協力して活動を行うことができた。③は、地域の人に渡すことや、丁寧に作られた門松の方が喜んでもらえるということは理解しながらも、丁寧さに課題が見られた。その点について指導いただいた点の中で、声かけの方法について、作業の速さについて褒めるのではなく、丁寧さについての言及をすることの大切さを学んだ。また、出来上がったものについて見比べさせてみるなど、自分の活動について振り返る時間を取ってみるのも提案していただいた。さらに、子どもたちの学習の場の位置をもう少し工夫しても良かったなと感じた。安全性や、互いのグループの活動の様子を見ることができるように工夫するとよりよくできたかなと思う。また、テレビの画面の見やすさという点も意識していきたい。それぞれの見え方を考え、指導者の立ち位置やテレビの角度などを工夫していきたい。

個人のねらいとしては、全体を見ながら活動をすることだった。これは、活動中に意識して、どちらのグループも行ったり来たりしながら指導することができたかなと思う。また、先生たち同士の声かけも意識して行うことができた。前回の課題はだいぶ改善することができたと感じる。